

奈っ自慢子

子どもたちに身に付けさせたい力 文責 宮本金一朗

主体性しんたいせい： 気づく → 考える → 動く
 人前ひとまへ力ちから： 自ら表現・他者理解・協働
 たい力ちから： 体力・耐力・態力 2月21日(月)

校訓
教育目標

なせばなる なさねばならぬ なにごとも ならぬは 人の なさぬなりけり
 夢・実現 ~夢の実現に向かって努力する「奈っ自慢子」の育成を通して~

小学校図書貸出数5000冊突破！！

3学期のスタートのときにお伝えしたとおり、学校評価等での反省も踏まえて、今学期は、読書指導を学校経営の大きな柱にして取り組んでいるところです。童里夢さんの読み聞かせ活動や御家庭の御協力もあり、小学校が年間貸出冊数の目標として掲げていた5000冊を大きく突破することができました。私は小さい頃、よく伝記や探偵・推理小説を読むのが好きでした。伝記ではエジソンやフーブル、シートン、探偵・推理小説では、江戸川乱歩さんの作品（怪人20面相など）に夢中になり、休日は一日中読んでいたこともあります。今、想えば、そのときのなぞ解きへの興味が、今の職業（理科教員）にもつながっているのかもしれませんが。読書は、視野を広げ、興味をくすぐり、自分の可能性を大きく広げてくれます。今後も御家庭での御指導よろしくお願い致します。



アンコンシャスバイアス授業

2月7日(月)、一般社団法人「アンコンシャスバイアス研究所」の守屋智敬さんに講師をしていただいて「アンコンシャスバイアス授業」を実施しました。「アンコンシャスバイアス(アンコン)」とは、性別や職業などに基づく無意識の思い込みのことです。アンコンに気づくことで互いに相手を尊重した行動も取ることができます。今回は2時間をセットにした授業を仕組んでおり、明日の2回目の授業までに「私のアンコン」を探ることになっています。御家庭でも授業のことを話題にさせていただき一緒に「アンコン」について考えていただければと思います。



小学生短縄大会

2月17日(木)、小学校の学級懇談会の日に合わせて、全校児童で縄跳び大会を行い

ました。3学期に入ってから、朝の活動や昼休み、そして御家庭でも必死に練習してきました。コロナ禍で実施も危ぶまれましたが、子どもたちの熱意に押され、感染対策を講じての実施を決断しました。最初の「前飛び」から始まり、「後ろとび」「前あやとび」「後ろあやとび」「前交差とび」「後ろ交差とび」「前二重とび」「前二重あやとび」「後ろ二重とび」「前二重交差とび」「前三重とび」「持久とび」の12種目です。今日はたくさんの人が応援してくれたせいか、いつもより記録を伸ばしている人が多かったようです。特に驚いたのは三重とびができる人が何人もいたことです。縄跳びは、一度とぶだけでなく、何度も何度も縄を回し、継続して多くの回、数をとぶ必要があります。失敗しないためには意識を縄をとぶことに集中することが必要です。「集中力の向上」「忍耐力の向上」「持久力の向上」「筋力の向上」が見込める優れものです。大会は終わりましたが、今後もぜひ縄跳びで心も体を鍛えてほしいと思います。



立志の会(中学2年生)

2月18日(金)、5校時「立志の会」を行いました。立志の会のそもそもの始まりは、江戸時代の成人式にあたる「元服」からきていると言われています。「元服」というのは、「元」は冠をかぶること、「服」は成人の服を着る、という意味で、数えて15歳の立春で行われていました。戦後「元服」は廃止されましたが、自分自身を見つめ直し、大人の自覚を促すという意味合いが受け継がれ、現在でも多くの中学校が2年生のこの時期に実施しています。本校でも自分を振り返り新たな希望に向けて進み出すきっかけにしようと毎年開催しています。今年も、過去・現在・未来を綴った「自分年表」をつくり、将来への夢・希望に思いを膨らませることができました。

